

「安倍さんがわかりやすくお答えします！平和安全法制のナゼ？ナニ？ドウシテ？」
【第1夜】平和安全法制はなぜ必要なの？なぜ急ぐの？ (2015.7.6)

https://www.youtube.com/watch?v=GVaZo2OO_t4 より文字起こし

動画を見るのは時間がかかるので、文字に起こしました。なお段落分け等は私の独断です。左側が文字起こし部分。黄色地は大沼みずほ参議院議員（インタビュアー）、白色地は安倍首相の発言。右側は私の注釈（とツッコミ）。

私も地元をまわってますと、特に女性の方から「平和安全法制と言うけれども、戦争法案というようなことを言う人もいるし、なんだかちょっと怖いなあ」ということを仰る方も非常に多いんですけども、本当にそうなんですかね？

あのお、今言われたようにですね、戦争法案とか、怖いんじゃないか、そんなイメージが残念ながら大分広がってしまったと思います。

思い出していただきたいと思うんですが、まだ大沼さんにとっては相当若い時代になると思いますが、PKO法案をですね、審議したときも、自衛隊を海外に出すと、これはもう海外派兵じゃないか、戦争の時代に戻るんじゃないか、こんなことを言われました。そして法律が成立した時ですね、ある新聞は、日本がずっと戦後守ってきた基本的な姿勢を変えるものだ、立法府の自殺だ、とまで断じた社説もありました。憲法違反だという批判も随分あったんですね。

先般、日・メコン首脳会議がありまして、カンボジアのフンセン首相と会ったんですが、フンセン首相はですね、「あの時日本が決断をしてくれてPKOを出してくれた、PKOで自衛隊が参加してくれたおかげでその後のカンボジアの平和と安定、発展があった。今は南スーダンでカンボジアはPKO活動をする方にまわる事ができた。そして今カンボジアがおこなっている医療支援においては、日本の自衛隊員であれば24時間いつでも最優先で診察したいと思っている人がたくさんいますよ。」というお話でした。あの時はフンセンさんは日本において、ある新聞からは、なぜPKOを受け入れるんだ、という批判すらあったと、こう語ってました。そして、今度もこの平和安全法制が成立して、PKOにおける自衛隊の活動が、より積極的な貢献ができることになれば、南スーダンにおいてカンボジアの部隊と自衛隊の部隊が共に南スーダンの平和と安定のためにもっと力を合わせる事ができますね、というお話をいただきました。

このようにいろんな議論があるんですが、今度の法制もですね、まさにまずは日本人の命や幸せな暮らしを守るための法制であり、同時にですね、今は日本人は世界中で仕事をしていたり、あるいは旅行をしていると思いますね。そのためにも、やっぱり世界が平和で安定である必要があると思います。そういう仕事のために自衛隊の皆さんにもですね、世界の国々と共に汗を流していく、これは決して戦争をするのではなくて、むしろ戦争や紛争を抑止をしたり、あるいは平和な状態を保つために、この法制を進めていきたいなあと思っています。

私もイラク、ヨルダンの難民キャンプに行った時に、日本人の女性でユニセフで働いている、青年海外協力隊で頑張ってる方、やっぱり今の法律では何かがあったときに、PKO部隊でいらっしゃる自衛官の方が助けられないというのは、やっぱり世界中で働いている日本人のそうした命を守っていく上でも必要なのではないかと思います。

一方で戦争につながるんじゃないかという不安の声もあります。70年間、日本が平和国家として歩んできた訳ですけども、なんか、それを違う方向に行っちゃうんじゃないか、というような声もあるんですけども

戦争法案とかですね、「安倍さん、戦争をしたいんですか？」ということを行う人がいるんですね。野党もそういう決めつけをよくします。70年前、私たち日本人は一つの誓いをしました。「二度と戦争の惨禍は繰り返してはならない」との誓いのもと、平和すら平和国家として日本は歩んできましたし、そしてこれからはさらに地域や世界のために貢献しなければいけないと思っています。「戦争をしたい」なんか誰も思ってませんよね、自民党で。前の選挙でですね、「戦争をしたい」と思って自民党に票を入れた人は一人もいないと思います。

我々はですね、まさに有権者に日本の政治を託されました。託されたということは、まさに平和な日本を守ると、日本をより繁栄させていくと、皆さんが、日本人が、安心して生活できる日本を作っていく、あるいは皆さんが安心して世界で活躍できる、そういう世界を作っていくために日本は貢献をしたいと考えています。

私も実は、戦争をしたくない人と戦争をしたくない人が、戦争をするのかしないのか、とおかしな議論をしていると地元で言われてまして、我々は戦争を食い止めるためにこの法案をむしろ出すんだ、ということ積極的にアピールしていかないとあぁと思いました。

一方で、やっぱり、日本を取り巻く環境というのは、北朝鮮からテポドンが飛んできてニュースになりましたけれども、確実に脅威というのは広がっているというのも国民はわかっていると思うんですね。新しいリーダーになって、でも今まだ不安定で、処刑もいっぱい、何か暴発するんじゃないか、とか、やはりその脅威の認識というのは共有していかなくちゃいけないと思うんですけども。

要するに「これは戦争法案なんですか？」という問いに対して。

「昔は反対してたけど、今はみんな認めてるだろ？だから今の反対も誤りなんだよ」というのは安倍首相がよく使う屁理屈です。でも大事なのは『反対の中身』

カンボジアPKOの話。。。言いたかったんですね、きつと。

「平和のためにこの法制を進めたいなあ」という安倍首相の気持ちだけで、何の説明にもなってません

インタビュアーの大沼さん、唐突にPKOの駆けつけ警護の話でまとめちゃってます

そして次の質問は「平和国家の道と違う方向なのでは？」

『戦争につながってしまう』という不安を『戦争したいと思ってる』に置き換えて話をずらしています。

憲法でじばられている事をお忘れなく。

次の質問は「日本を取り巻く環境」についてかな？

そうですね、例えば北朝鮮ですね。かつて北朝鮮は拉致作戦をおこなってですね、13歳の少女も含む多くの日本人を拉致をしました。工作船でやってきて、闇夜にまぎれて上陸をして、という工作員もいました。しかしですね、当時、拉致がおこなわれた70年代、まさか北朝鮮がそんなことをするのは、みんな思わなかったんですね。国ぐるみで人を拉致する、そんなことをして何が利益になるんだ、みんなこう思っていました。で、私たちが拉致問題があるという主張をしていた時もですね、「何を言ってるんだ」と「北朝鮮とうまくやらなければいけない」と、確かに北朝鮮と我々もですね、なんとかこの拉致問題を解決するために交渉をしています。でも実際に拉致作戦をやっていたのは事実です。

同時にですね、北朝鮮は数百発の弾道ミサイルを持っていて、そのうちノドンミサイルというのがありますね。ノドンミサイルというのはまさに日本を標的にしていて、それにのせる核兵器の開発も進んでいます。そこでこれは撃ち落とす、日本人の命を守るために、このミサイル攻撃から日本を守るためにミサイル防衛システムというのを日本は入れているんですね。海上から発射して撃ち落とす、あるいは陸上から発射して撃ち落とすんですが、この飛んできたミサイルを、例えばですね、1000kmの距離は10分間で到達をしよう、その間にですね、撃ち落とさなければいけません。そのためにはアメリカの協力が必要なんですね。アメリカの衛星がそれを発射した事を知り、軌道計算なんかをします。そういう協力をしながら、これを撃ち落とすために日本のイージス艦も配備されますが、米国もたくさんイージス艦を持っていて日本と協力をしていく。まさに日米と一緒に北朝鮮のミサイルから日本を守ります。ミサイル撃ち落とすだけでは、どんどんミサイルが飛んできますから、ミサイルの基地も攻撃をしなければいけません、日本はその能力がありませんから、米国がそれを担っていきます。つまり、日本と米国が一緒になって日本人の命を守らなければいけないという、そういう今、時代を迎えている。

昔は日本はそんな能力、アメリカの船を守るなんていう能力は、実はほとんどなかったんですが、今はイージス艦という高い性能の自衛艦があります。その日本の自衛艦と米国の同じ能力を持つ船が協力をすることによって、非常に強力になっていくんですね。そのために、そういう協力をスムーズにおこなうための、今回は法律でもあります。実際に日本を守るために日本海に展開して警戒をしているアメリカの船が攻撃を受けた時に、この船を守れなければですね、日本を守る事ができない。それをできるようにするのが、今の法律でありまして、そのように大きくですね、日本を取り巻く環境はですね、変わっている。

昔はですね、もう随分昔の話にはなりますが、米ソの冷戦時代には米国とソビエト連邦が二つに分かれていましたから、この二つの大きな国が話をすれば解決をする、という時代がありました。その中で日本もアメリカの下にいれば、安全を、平和を享受することができたんですが、今はもうより複雑になって、例えば中東で起こっている事は、もちろんアメリカもなかなかコントロールできない、そしてもちろんソビエトもコントロールできませんし、中国もコントロールできないという状況があります。その中で、世界みんなが協力をして合わなければですね、それぞれの国は守れないし、世界で活躍しているそれぞれの人を守るためには世界中がお互いに協力をしなければいけないという時代になっている。そういう時代になったからこそ、日本は日米同盟の力をですね、協力の絆を強めていくという事と、世界と共に地域の平和を守るための貢献をですね、日本もしていくことによって、結果としてやっぱり、日本人は世界で活躍できるし、日本も守る事ができるのではないのかなあと思いますね。

はい、ありがとうございます。
日本はやはり災害も多いですし、防災意識というのはすごくあると思うんですけども、やっぱり、そうした国際環境においても、備えをしていく必要があると思うんですが、これまではあまりそういう法整備は進んでいなかったということでしょうか？

決してそんなことはないんですね。先ほども申し上げましたPKO法案を成立をさせて、世界における平和と安定のために貢献を始めました。でも、それでもやっぱり、幾つか不備がありました。それを今度、しっかりとその不備をなくしていこうというもののなのです。

あるいはまた周辺事態安全確保法、これはまあ朝鮮半島とか、アジア等々ですね、何か日本の安全を脅かすような出来事があったときには日本は後方支援をしましょう、というものです。

またテロ特措法というのがありましたね。あれはアフガン戦争が始まった後ですね、テロを根絶をしていくために日本は給油活動をおこなった。

こういう時々求められる事は、やってきているんです。

そういう中で、先ほども申し上げましたように、段々厳しさが増してくる。そして、日本も能力を、いろんな経験をして上げてきた。そういう状況の中で例えば日本に近づいてくる国籍不明機がいるんですが、そういう国籍不明の戦闘機や爆撃機が日本の領空に入ってくないように自衛隊はですね、緊急発進をして、領空に入っちゃだめですよ、ということを伝えるんですね。この緊急発進については、この10年間で約7倍に増えているんですね。つまり、それぐらい実は日本を巡る環境は厳しさを増しています。

拉致の話。。。言いたかったんですね、きつと。

北朝鮮のミサイルの話を出してきてますが、結局何がしたいのやら？

背景の状況が曖昧なまま話をしています。つまり今と同じ状況なのか？日本にミサイルを撃ち込むと宣言されているのか？などなど。

警戒中の米軍が攻撃を受けた時に守る守らない、を言う前に、その前提となる状況を考える必要があるはず。どの状況下だと現行法制ではダメなのか？を少なくとも説明すべきでしょう。

何が言いたいかわかりません。。。。

日米同盟が大事で、その日米同盟の為に今回の法制がある、と言いたいのか？

次の質問は「現行法制について」

『PKO法』

『周辺事態安全確保法』

『テロ特措法』

緊急発進はこの10年を見ると7倍ですが、さらに昔の1980年代にはもっと多い年もいっぱいあります。
<http://www.mod.go.jp/asdf/about/role/bouei/>

でも、これは日本だけで、日本を守り抜くのは大変です。ですから日米同盟の力、あるいは国際社会と連携をしていく。

もちろんですね、一番大切な前提はですね、外交努力をしていくということですね。お互いに武力による威嚇、そういうことはおこなってはダメですね、と、物事がもし紛争があったら、平和的に解決しましょうということとは当然言っていくし、外交努力のために私も今まで54ヶ国、世界をまわりました。そういう努力をすると同時にですね、やっぱり、今やっている法律というのは、いざという時のためのものなんです。でも、明日必要かという、それはわかりません。でも明日必要でないことにするために、ちゃんと備えはしておきましょう、と。いざという時のための法律ではありませんけども、作っておけばですね、これは、私は安心ではないかと。それはいわば抑止力になるんだろうと思います。

備えあれば憂いなしということでありませぬ。
ソマリア沖では年間200件を越えていた海賊による襲撃事案もあったわけですが、これは上半期ゼロということになったと。

そうですね。この備えあれば憂いなしというのは、まさに一般のご家庭でもですね、戸締まりをしっかりとしていけば泥棒や強盗が入らない。また、その地域、町内会ですね、お互いに協力し合っていくと、隣のお宅にも泥棒が入ったら、すぐに、わかったら警察に連絡する。そういう助け合いがちゃんとできている町内はですね、犯罪というのは実際少ないんですね。そういう所には泥棒が入ったら捕まってしまうから、そういう所には入りませんよ、まあこれがいわば抑止力なんですね。戸締まりもしなくて、開け放って寝ていたらですね、そういう家には、簡単だと、捕まらないし、簡単な仕事だと思っただけで泥棒や強盗が入ってくる。そういう戸締まりをちゃんとしていく、しかもお互いに協力し合っていくということであればですね、そういう地域には恐らく悪い人は入っていかない。

そこで、ソマリア沖でですね、かつては海賊が横行していました。日本の船も随分襲撃されましたね。1年間に一番多い時で237隻が、襲撃事件があった。そこでかつては、日本は日本の船だけは自衛隊が守る事が出来たんですが、しかし、日本の船だけではなく、船籍が違う船もですね、日本にやってくる船もあります。そこで国際社会でですね、お互いに助け合ひましょうということになったんですね。お互いに助け合って、お互いに協力して、世界の船をみんなで守りましょう、ということになりました。そこで自衛隊も参加することになって、今までは自衛隊は日本の船しか助けられなかった、今度は自衛隊は世界の船も助けますよ、ということと同時に、アメリカやイギリス、フランス、いろんな国々と共にそこを通る船を守るんですね。ということになったんですね。そしてそのことによつて、今仰ったようにですね、かつて200件を越えていた海賊、これもうゼロ、今年は半年でゼロになった。つまり、こうやって各国の軍艦がいる、日本の自衛艦もいますから、襲つたら自分たちがやられてしまいますね、これが抑止力。ゼロになったけれども、ではやめるかといったら、この船がいるから、自衛艦もいるから、みんな襲わないですから、これからも続けていこうということになったんだろうと思います。

この海賊対処法を決めた時ですね、実は遠いソマリア沖ですから、とっても遠いんですね。そんな地球の裏側まで行くんですか？ホルムズよりも少し遠いんですね、という議論もありました。民主党は反対しましたね。でも、今、日本人の多くは「やってよかったな」と思っているのではないのでしょうか？日本船主協会、船主の会の人達もですね、「是非続けてください」と言っています。あの時も本当に同じような意見があった。

これは集団的自衛権の行使ではありませんし、いわゆる武力の行使とは違いますが、だいたい姿としては似ているんですね。国際社会がみんなでやっていこうという機運ができてきた。これはもう10年前、20年前とは大きな違いだと思います。そういう時代に合せて、相手が国であったとしても、国同士が協力し合っていくことによつて、その国や地域の人達の幸せな暮らしが守れるのではないのかなあと、そのための法律だということをこれからもわかりやすく説明していきたいと思います。

少しだけ個人的感想

改めて今回のテーマを確認しておきます。
『平和安全法制はなぜ必要な？なぜ急ぐの？』

この回の内容をまとめると、
『日本を取り巻く環境は悪化しており、この法制で抑止力が増してより平和になると思っている。』以上。（そう思う根拠は不明）
法律の中身についての説明はほとんどありません。
安倍首相がどう思っているか、なんてどうでも良くて、新しい法制のどこを根拠にそう言えるのか？が問題なはずなのに。

それと、どうしても気になるのが、カンボジアPKOやソマリア海賊対処も法案作成時には反対意見が多くあったが、今はみんな納得してる。という話です。
「今の反対意見は無視する」という安倍首相の態度の裏側の論理なのですが、根本的におかしい話です。
例えば『憲法に違反する』という表面的な表現は同じかもしれませんが、大事なのは『憲法に違反する』と言う論理・理由の方です。
うまい例えが思いつきませんが、ある日、「このお菓子は激辛だから食べちゃダメ」と言われたとします。それを無視して食べると、これは辛くなかった。
次の日、「このお菓子は激辛だから食べちゃダメ」とまた言われたとします。
なぜ激辛と言ったのかを確認すると前日は『赤いから辛いと思った』、今日は『唐辛子を大量に入れるのを見ていた』
「なぜ激辛なのか？」という理由を無視して「前もそう言われて食べて大丈夫だったから今回も大丈夫」というのが安倍首相の態度です。

これ5回シリーズなんだそうです。5回も見ると辛いなあ。。

「武力による威嚇はダメ」と言いますが、安倍首相の言う抑止力って「武力による威嚇」なのでは？

なぜソマリア？

権力を持つ『国』と家庭の話をごっちゃに説明して違和感を持っていない時点で、やっぱり立憲主義わかってないんだなあ、って思っちゃいました。

ソマリアの海賊対処。。。言いたかったんですね、きつと。

また出ました「昔は反対してたけど、今はみんな認めてるだろ？だから今の反対も誤りなんだよ」

え？終わり？